



親子でつくって遊ぼう

都立産業技術高専

ものづくり工学科・吉田喜一

現在『草土文化』という出版社から発行されている『子どものしあわせ』という雑誌で、『親子で作って遊ぼう』という4ページだての連載を行っています。私の関係している研究会（『技術教育研究会』、『子どもの遊びと手の労働研究会』等）の仲間と交代で書いています。誰でも身近にある材料でつくれて楽しめる遊具を開発しています。去年の4月号から今年の3月号まで連載してきました。これまでのテーマは以下の通りです。紙ブーメラン、フライングリング、相撲ロボット、ぶんぶんコマ、六角形回転万華、紙の立体パズル、折り紙飛行機、紙とんぼ、紙のウグイス笛、戻るカミヒコキ、空気の流れて遊ぼう、ペットボトルロケットです。まだたね



があるのもう1年継続しようということになりました。2年間まとめて本を作ろうということになりました。私たちは『小・中・高一貫した技術教育をすべての子ども・青年に！』というスローガンを掲げています。小学校にも普通高校にも技術科を学ばせるべきだと主張しています。

しかし、小学校では例外的に私立の和光小学校で技術科を設置しているだけです。実質的に小学校で技術教育ができない中で、今回この連載を纏めたものが小学生用技術教育の教科書になればと思っています。

連載を読むだけではなかなか自分でつくるのは難しいです。ちよつとしたことが分からないです。去年の8月に本校で実技講座を行いました。

今度は4月7日（土）13時半〜16時半本校6階機械工学科講義室でもう一回実技講座を行います。連載をお読みでない方も歓迎します。

電話番号（3801）0145です。



さようなら「鹿島鉄道」懐かしの旅

今回は、消えゆくローカル線の問題をお届けします。

茨城県の南部を走る鹿島鉄道（全長27.2^キ）は、今月末をもって惜しまれつつも83年の歴史に終止符を打ちます。最近では、乗り納めや旧式の車輛を見ておこうという観光客・ファンで、連日大盛況のようです。

南千住駅からJR常磐線に揺られて約1時間20分・石岡駅が鹿島鉄道の起点です。ここから、昔懐かしいディゼルカーの旅が始まります。新興住宅地の間を抜けると、すぐに田園地帯を快走します。昭和40年頃の面影を残す常陸小川駅から、一面に広がるハス田を過ぎると、やがて右手には霞ヶ浦の穏やかな湖面が広がります。晴れていけば、車窓右後方には名峰・筑波山の秀麗な姿を望むことができますでしょう。また、夕日が湖の向こうに沈む頃には、絵のように美しい光景が展開されます。

湖岸がすぐ近く、その名も浜駅から先は、一転して台地の中を登り下りの行程となります。これまた懐かしい佇まいの玉造町駅を過ぎて、終点の鉾田駅に到着します。クラシカルな駅舎内には、立ち食いそばと鯛焼きの店があります。

戦後のモータリゼーションの進行、沿線の航空自衛隊百里基地への貨物（燃料）輸送の廃止、さらには親会社の関東鉄道の収支悪化（原因は、つくばエクスプレス線開業による鉄道・バスの乗客減なのだとか）と経営環境の厳しさが増す中で、沿線の学生やファンによる存続の願いも叶わず、とうとう廃止されることになったのです。

時代の流れとはいえ、また一つ、のどかなローカル線が姿を消すことには、旅好きとして一抹の寂しさを感じずにはいられません。



【消費生活アドバイザー】

佐藤 祐一郎

◆メガネのサトウ◆

南千住5丁目43の13 コツ通り

TEL 03 (3806) 4930

★営業時間のご案内★

平日・土曜：AM 10時〜PM 7時30分

日曜・祝日：AM 11時〜PM 6時30分

◎4月の毎週火曜日は休業日です。

（但し、3日は営業し、翌4日を休業日とさせていただきます。）